

熊楠ワークス

KUMAGUSU WORKS

第7回南方賞授賞式

南方熊楠(二八六七—一九四一年)の業績を顕彰するため和歌山県田辺市と南方熊楠邸保存顕彰会が平成二年に創設した南方熊楠賞の第七回授賞式が四月十九日、同市内のホテルで行われ、川添登さん(71) 郡山女子大学教授Ⅱに南方賞、カーメン・ブラッカーさん(72) 元ケンブリッジ大学教授Ⅱに同特別賞を贈りました。(川添さんの講演は2—7画)

川添 登さん
 「とまどいと喜び」
カーメン・ブラッカーさん
 「大変光栄です」



右から南方賞を受賞した川添さん、脇中孝・顕彰会会長(田辺市長)、ブラッカーさん(田辺市内のホテルで)

発行所
 南方熊楠邸保存顕彰会
 和歌山県田辺市新屋敷町1
 田辺市教育委員会文化振興課内
 TEL0739(22)5300(代表)

CONTENTS

2—7面	川添氏記念講演
8面	高野山を訪ねて
9面	南方ゆかりの地③
10面	神島を探る③
11面	普段着の南方熊楠
12面	第1回南方ゼミ

中瀬喜陽氏
後藤伸氏

授賞式では、顕彰会の脇中孝会長(田辺市長)と梅棹忠夫選考委員長(国立民族学博物館顧問)があいさつしたあと、選考委員の米山俊直氏(大手前女子大学学長)が選考経過を報告。脇中会長が両氏に各賞を授与しました。

川添さんは、早稲田大学を卒業後、建築評論家として活動する一方、日本人の生活全般を視野に入れた「生活学」を体系化。ブラッカーさんは、日本の修験道研究の第一人者で、南方学の研究と海外での紹介に大きく貢献しました。受賞に当たって川添さんは「どうして私に南方熊楠賞をいただけたのか」と、というとまどいが第一印象。いまだにちみもりのような世界にいるような気がしますが」と驚きと喜びを語りま

した。ブラッカーさんは「信じられないほどの光栄。心からお礼を申し上げます」と流ちょうな日本語で感謝の言葉を述べました。

授賞式に続いて記念講演があり、川添さんは「日本民間学と南方熊楠」、ブラッカーさんは「イギリス人の目で見えた南方熊楠」を演題に講演しました。

川添さんは「日本人の生活世界から学問を築きあげようとするのが民間学で、熊楠はその始祖」とした上で、「南方熊楠が独学した江戸時代から明治初期の学問には多様な神々があり、国際性をもっていました。が、今ではそれらのほとんどが失われてしまいました」と、民間学の現状を説明。最近起こったばかりの「道具学」が、熊楠の学問

を継承していくものにつながるかと位置づけました。ブラッカーさんは、熊楠が世界的な科学雑誌「ネイチャー」などに寄稿した英文の論文を分析しながら、その博学ぶりを紹介しました。

一匹の猫を飼っていた男がネズミ退治をして大金持ちになったというヨーロッパ各地に伝わる昔話が、仏教の説話をもとにしたという説を熊楠が、中国、インドの歴史や文化、宗教などあらゆる知識を駆使して展開したということなどを例に出し、「熊楠は驚くべき豊富な学問を示して、物語りが伝わっていく過程を証明しました」と話しました。
 *ブラッカーさんの講演は次号に掲載します。